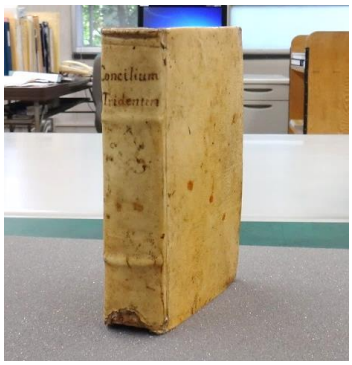
【実践的古版本書誌記述の流れ】



此部では実際の古版本(写真)を使って、どのように調査を進め書誌を記述して行くのか、その手順と詳細について、主に標題紙と校合式の記述を中心として例示する。
版面の計測法や注記の記述については適宜別項を参照して頂きたい。

（今回作業する本）
ヴェネツィア、フィオラヴァンテ・プラティ 1591 年刊。２巻合綴本。

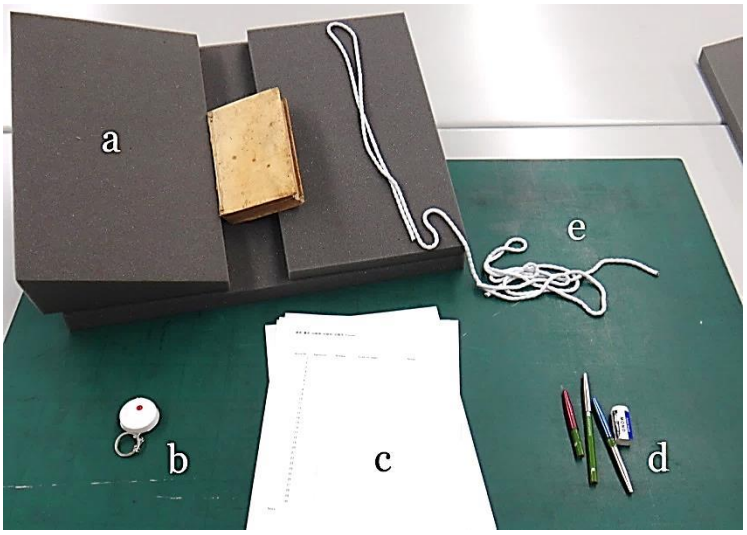
巻１：トリエント公会議(1545-1563)の議事録。総会毎の決議と関連する教書・教令をまとめた構成。巻末に索引あり。
巻２：禁書目録。ピウス４世による所謂「トリエント版」インデックスの最初のもの(1564 年初版)。リストは未だ 10 葉ほどの簡素なもの。

書誌記述の際、本文内容には踏み込まないのが原則。あくまでも物質としての古版本のデータ採録に集中すること。

§１ 調査の手順

－１．準備

調査にあたって先ず以下の物品を準備する。



ａ）書見台。(古版本の背を傷めない為。調査中は常に使用するのが望ましい)
ｂ）メジャー。(版面の計測に使用。金属製の物は使用不可)
ｃ）調査用紙。(書式自由。今回は分科会で作成したフォーマットを使用)
ｄ）筆記用具。(ボールペンなどインクを使った如何なる筆記具も使用不可。作業中に近づけないよう注意すること)
ｅ）ウエイト類。(ページ押さえ。あると便利)

調査が進むと参照ツールが不可欠になってくるので参考書・ＰＣ等必要に応じて準備しておく。

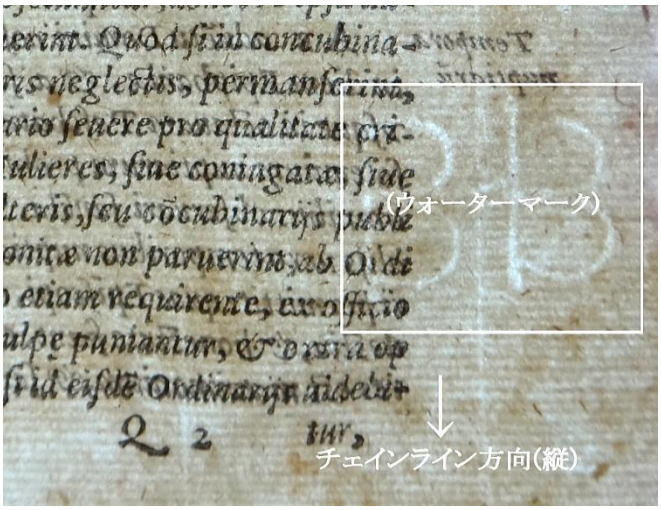
－２．判型の同定

凡その大きさ、用紙のチェインラインの方向・ウォーターマークの位置(透かしの様子。写真)で確認。

２＞４＞８＞１２(１６)折判の順に、チェインラインは縦＞横＞縦＞横の順で出現する。

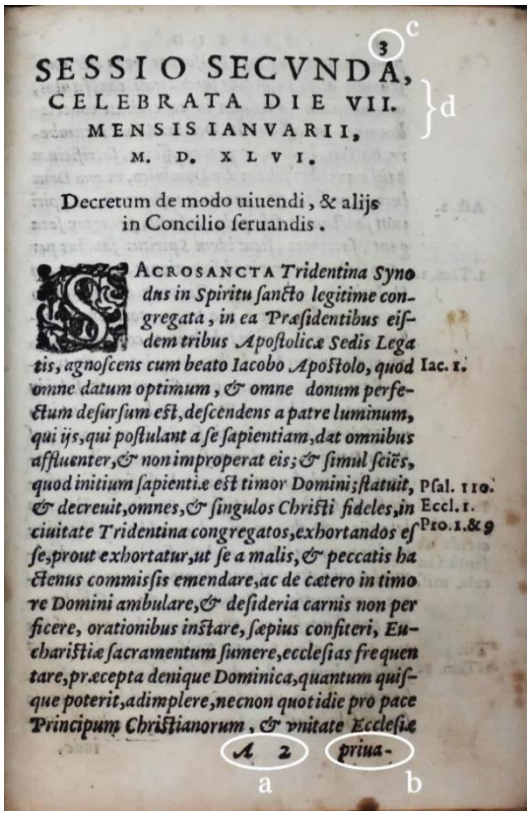
このコピーは装丁された状態でも高さが１５センチほどの小型本、チェインラインが縦方向に走っているので８折判とすぐに判る。

チェインライン等が確認できない場合でも、この後の折記号の調査で判定が可能。



－３．全紙葉調査

分科会で使用した教科書を含めて先ず標題紙の転写から始めるよう指示されているケースが多いが全体像を把握した後で詳細なデータ採りに移った方が記述のプランが立て易い。
特に古い本ほどそうで、このコピーのように合綴されているケースなどは猶更(ケースバイケースではあるが)。



調査は印刷されている全紙葉について行う。白地のページでも裏に印刷面があれば調査の対象になる。
調査個所は以下の点。

ａ）折記号

ｂ）キャッチワード(次頁冒頭語が一致しているか)

ｃ）ページ付け(落丁・乱丁・誤植の調査)

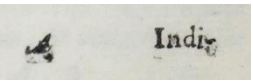
ｄ）その他コンテンツに記述すべきチェック点(各種タイトル情報に書き込みや図版の有無など)

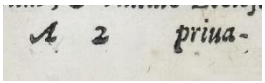
何度もやり直すような作業ではないので焦らず集中して調査する。

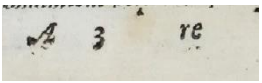
以下実践。

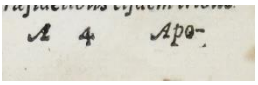
ーーａ．折記号の調査

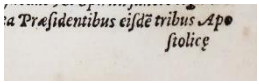
本コピーは以下のパタンで折記号が振られている。折記号がある紙葉４葉(A～A4。写真)が続いた後、

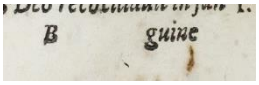








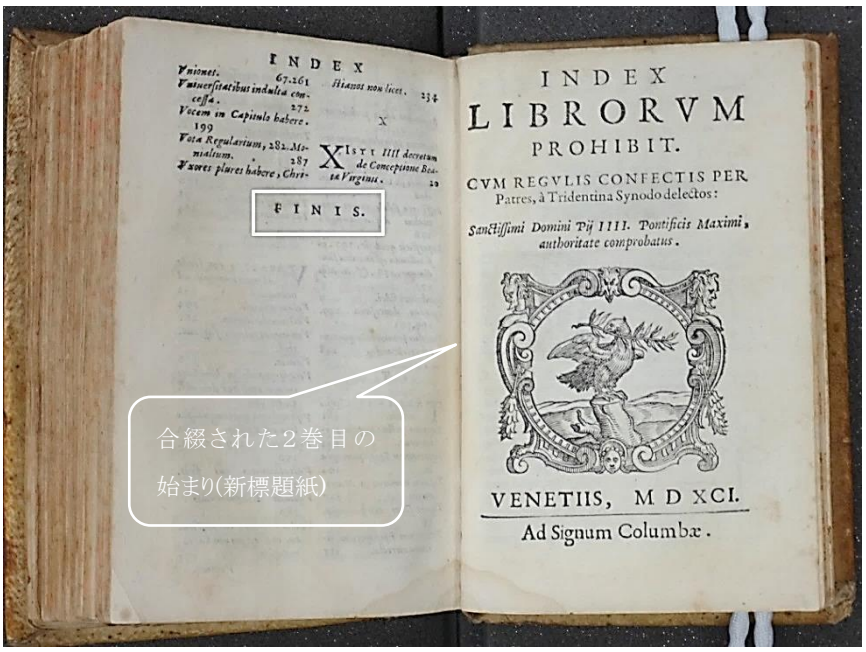
記号のない紙葉(写真) 

が４葉続き、次の記号(B。写真) 

へと移行する。以降も同様。つまり８葉構成(８折判)で各折丁冒頭４葉まで折記号が印刷されている形なのが判る。

乱丁等ある場合、煩瑣な記録作業を強いられた挙句複雑怪奇な校合式が成立、一気に「専門家」臭芬々たるものとなって敬遠されるオチとなるがこのコピーはその点実に健全、最初から最後まで整然と折丁が構成されて紙葉の挿入やキャンセルが見られない。

アイディアル・コピーと言える。



またこのコピーは折丁ＤＤの８葉目裏(２Ｄ８^{v})の FINIS.表記の後に続いて新たな標題紙が登場(２巻目の存在。写真)し、最終的に同††８葉目裏(２†８^{v})の FINIS.で終了するという合綴本である。このようなケースは珍しくないが、記述の際に注意する。

ーーｂ．キャッチワード(ＣＷ)

次頁冒頭語と一致していない場合記録をする。異刷・異版の比較同定の手掛かりとなるので漏れずに記入する。

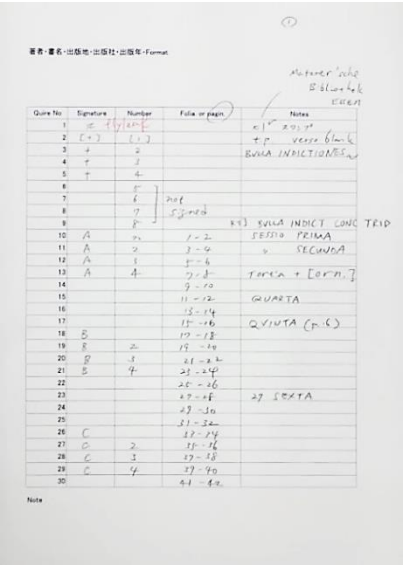
ーーｃ．ページ付

ページ付が異同している場合は逐一チェックする。このコピーに関しては１巻目に１か所ページ付がなかった箇所があったのみ。２巻目にはページ付無し。

ーーｄ．コンテンツに記述すべきデータ

書誌記述の清書の際に採否を選択すれば可いので、調査の段階では白紙葉やセクション題、柱題か

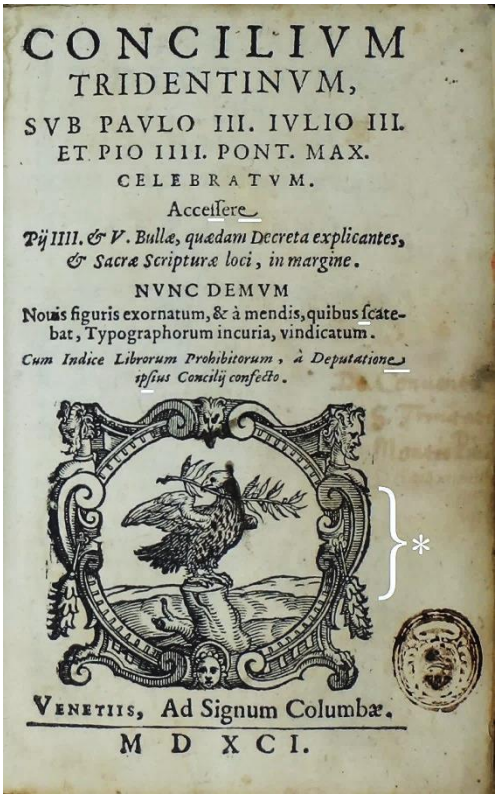
ら装飾の有無など活字や組み付けなども含めて思いつくまま出来るだけメモを取る。



右に示すような形で只管に調書を取って行く(写真)。この作業が苦になるかならないかは適性かも知れないが、私は正に本と対峙して対話をするこの時間が実に楽しい。
厄介な本ほどそれこそ時間の経つのを忘れるほどに没頭できる美しい仕事なので、図書館に勤める人なら是非とも一度ならず経験を積んで頂ければと願っている。

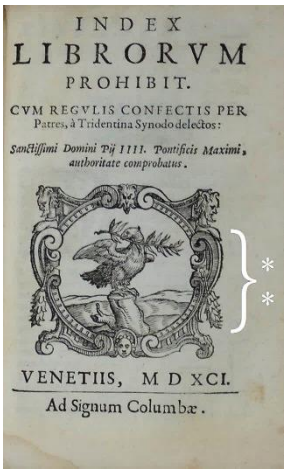
§２ 記述

－１．標題紙の記述


CONCILIVM
TRIDENTINVM,
SVB PAVLO III. IVLIO III.
ET PIO IIII. PONT. MAX.
CELEBRATVM.
Accessere
Pij IIII. & V. Bullæ, quædam Decreta explicantes,
& Sacræ Scripturæ loci, in margine.
NVNC DEMVM
Nouis figuris exornatum, & à mendis, quibus scatebat, Typographorum incuria, vindicatum.
Cum Indice Librorum Prohibitorum, à Deputatione ipsius Concilij confecto.
VENETIIS, Ad Signum Columbæ.
M D X C I.

準ファクシミリ式と呼ばれるやり方で標題紙の情報を記述する。現代の本のように標題紙の言語情報のみ機械的にＰＣで書く、というのとは違って、使われている文字の区別(大文字小文字は勿論、下線で示したロングＳやテイルドレターの別なども)、活字や刷色の違い、改行の状況、罫線や図版の様子など、載っている情報をとにかくあるだけ文字で再現する。教科書などに「書いてある通り」という記述があって、最近の記述は専らＰＣで行う関係上、豊富なフォントを使って「書いてある通り」を文字通り実践しようとする向きがなくもないが多色刷りの表記法とか髭文字やゴシック体の扱い一つとっても「そのまま」の再現というのは難しい上、如何なるフォントを使っても「活字そのもの」を意味しない、ので、書いてある情報を判りやすく伝えるという主眼からあまり逸れないように。どうしてもという場合は写真を並置する方が良い。

(＊)図版の扱い
図版は単に[orn.]や[device]とのみ記して済ませることも許されている、が、勿論記述出来るのであればした方が良い。参照できるツール・データを持っているならばその出典を明記することで代用しても可(この標題紙に大きく描かれた商標は典拠 http://edit16.iccu.sbn.it/web_iccu/imain.htm があったのでその旨示した)。


INDEX
LIBRORVM
PROHIBIT.
CVM REGVLIS CONFECTIS PER
Patres, à Tridentina Synodo delectos:
Sanctissimi Domini Pij IIII. Pontificis Maximi,
authoritate comprobatus.
VENETIIS, M D XCI.
Ad Signum Columbæ.

本コピーには合綴された２巻目の標題紙(写真)もあるのでそれも同様の方式で記述する(Second title として清書時にまとめ)。

(＊＊)
商標が前標題紙と同じものであることを確認。

－２．　校合式の記述

合綴された２巻共に紙葉の出入りのない整った折丁構成を示した。
１巻目：†、ＡからＤＤまで各８葉構成(４葉目まで折記号あり。標題紙†１を除く)。
故に校合式は†^{8}　Ａ－２Ｄ^{8}［＄４　signed (－†１)]となり、
同様、
２巻目：†から††まで各８葉構成(４葉目まで折記号あり。標題紙†１を除く)。
故に校合式は†^{8}－２†^{8}［＄４　signed (－†１)]となる。
合綴されているので２つの式は「;」を使ってまとめる。

－３．　その後の作業

－－1. 版面の計測(方法は別項参照)。活字の種類と行数を逐一記録する。部分毎に版面が異なる様であれば全て計測の上記述する。

－－2. コンテンツ記述。調査時に拾った情報をまとめて記述して行く。細かく記し過ぎないこと、必要十分で。テキストの解釈はしない。

－－3. コピーの状態。その本その物(インディビジュアル・コピー)の情報を最後に調べる。来歴が分かれば詳しく調べた方が良い(別項参照)。献辞や書入れ蔵書票など旧蔵者情報をアップしておくことは研究者にとって有益(特に最近盛んな History of the book の領域で重宝されるだろう)。挿入葉や欠葉があればその詳細、書き込みの情報なども解読できる範囲で記す。最後に装丁の状況を記述。

－－4. 典拠・目録情報
参照した書誌・目録やサイトがあれば必ず記す。基本的には別コピーの参照情報はあればあるほど良い。記述に際して参考にした文献もあれば挙げる。

以上手順通り調査をし、まとめた結果このコピーの書誌記述は以下のようになる。

Concilivm Tridentinvm, svb Pavlo III. Ivlio III. et Pio IIII. Pont. Max. celebratvm. ; Index librorvm prohibit. cvm regvlis confectis per patres, à Tridentina Synodo delectos...
Venetiis, Ad Signum Columbae [Fioravante Prati], 1591.

Title, [†1^{r}]: CONCILIVM | TRIDENTINVM, | SVB PAVLO III. IVLIO III. | ET PIO IIII. PONT. MAX. | CELEBRATVM. | Acceſſere> | *Pij IIII. & V. Bullæ, quædam Decreta explicantes,* | *& sacræ scripturæ loci, in margine.* | NVNC DEMVM | Nouis figuris exornatum, & à mendis, quibus ſcate- | bat, Typographorum incuria, vindicatum. | *Cum Indice Librorum Prohibitorum, à Deputatione>* | *ipſius Concilij confecto.* | [device: ICCU Z360] | VENETIIS, Ad Signum Columbæ. | [rule] | MDXCI.
Second title, [^{2}†1^{r}]: INDEX | LIBRORVM | PROHIBIT. | CVM REGVLIS CONFECTIS PER | Patres, à Tridentina Synodo delectos : | *Sanctiſſimi Domini Pij IIII. Pontificis Maximi,* | *authoritate comprobatus.* | [device: ICCU Z360] | VENETIIS, MDXCI. | [rule] | Ad Signum Columbae.
Colophon, 2B8^{v}: VENETIIS, | [rule] | Apud Florauantem Pratum>. | MDXCI.
8° in 4s : †^{8} A-2D^{8} ; ^{2}†-2†^{8} [$4 signed (-†1, ^{2}†1)], 240 leaves. pp. [16], 1-399, [1], [32] ; [32].
P. 170 unnumbered.
CW] S4^{r} Dei [quia].
Bvlla indictionis in 35 lines with headline and direction-line, 123 (129) x 67 mm (†2^{v}), 70R; Sessio in 29 lines with headline and direction-line, 123 (130) x 65 mm; mrg. nn. 13 mm (A2^{v}), 85I; Index materiarvm in 2 cols., 36 lines with headline and direction-line, 121 (128) x 72 mm; printer's measure 35 mm (2C2^{r}), 68I; Index lib. prohib., dedication in 35 lines with headline and direction-line, 122 (125) x 71 mm (^{2}†2^{v}), 70R; Præfatio in 35 lines with headline and direction-line, 118 (124) x 70 mm (^{2}†4^{v}), 67I; Regvla in 45 lines with headline and direction-line, 119 (125) x 71 mm (^{2}†6^{v}), 52R; index in 2 cols., 45 lines with headline and direction-line, 119 (125) x 72 mm; printer's measure 31 mm (2†1^{v}), 53R.
Contents: [†1^{r}], title (verso blank); †2^{r} , BVLLA | INDICTIONIS; A1^{r}, text; 2B8^{r}, FINIS.; 2B8^{v}, colophon; 2C1^{r}, INDEX | MATERIERVM | AC RERVM | TOTO OPERE | MEMORABILIVM.; 2D1^{v}, FINIS.; [^{2}†1^{r}], second title (verso blank); 2†8^{v}, FINIS.
Ref.: EDIT16, CNCE14717 (http://edit16.iccu.sbn.it/scripts/iccu_ext.dll?fn=10&i=14717).
USTC, Ref. No.861075(http://ustc.ac.uk/index.php/record/861075).
Copy: Yamada, 155 x 105 mm, bound in contemporary vellum; some notes in ink on flyleaves.
P: Stamped on front flyleaf, 'Matzner' sche Bibliothek, Essen'.

§３ 調査の目的と意義

大学図書館員として西洋古版本の書誌を学問的に順った形で書くその目的は第一義に「研究者の役に立つ」為である。ネット経由で世界中の書誌情報を参照できるようになった現在、海外の研究者が遠い日本にあるコピーについても異同の調査が出来るようになったいう現実を真摯に受け止めなければならない(逆もまた然り)。国際的に理解可能な基準・水準で書誌記述を行って情報をアップしておくことは往々にして死蔵の方向に向かいがちな西洋古版本の有効活用という観点からも重要。
日本の大学図書館に勤務している以上、校合など比較分析的な調査は環境的に限界がある。西洋古版本の所蔵点数の少なさ(海外と比して)、その裏返しの貴重書扱いでアクセス・調査等制限が多い。致し方ない部分もあるが、それだからこそ自館のコピーについては責任感を持って精密な調査を行い、信頼できる情報を公開しておくことが求められる。目録規則で書いたレベルの書誌では研究の役に立たない、これもまた受け止めるべき現実である。

使用教科書＋参考文献

雪嶋宏一（2011）『西洋古版本の手ほどき ： 基礎編』明治大学リバティ・アカデミー.
高野彰（2014）『洋書の話. 第２版』 朗文堂.

使用図版全撮影編集著者.